

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成26年 1月21日更新

事務事業名	塩浸川浄化センター及び関連ポンプ場維持管理事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連
総合計画	政策	2	緑豊かな環境と共生するまちづくり		所属部	水道局	課長名 水野 孝春
体系	施策	10	水環境の保全		所属課	上下水道課	担当者名 鍋田 将文
	基本事業	30	水質の浄化		所属班	管理工務班	(内線) 1156
予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	成果優先度評価結果 : ⑦
	下水	1	1	3	10237	下水道法、水質汚濁防止法	コスト削減優先度評価結果 : -
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 24年度で終了 <input type="checkbox"/> 24年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)	

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	特定環境保全公共下水道事業として建設された終末処理場である塩浸川浄化センター、汚水中継ポンプ場(筒井、村廻、小池、大池)4箇所及びマンホールポンプ場(28箇所)を適切に運転及び維持管理する事業である。旧合志町と旧西合志町で組織する一部事務組合(合志西合志下水道組合)により、平成4年3月の供用開始(施設の処理開始)とともに、運転及び維持管理を開始した。平成18年2月の合併、合志市の誕生とともに一部事務組合を解散し全ての財産を市が引き継いだ。下水道法に基づき有資格者による維持管理を行う必要があるため、運転及び水質並びに施設の維持管理など、専門業者に業務のほとんどを委託している。ただし、業務に必要な消耗品、医薬材料、燃料等の適宜調達管理、機器の故障や不具合に対する補修・改修は直接市が行っており、委託する維持管理状況の確認、指示、指導及び法定検査への対応を行うものである。供用開始から19年を経過し、老朽化が進んでおり、5年前と比較すると施設の補修箇所が増えている。
【業務の流れ】	①役務及び委託業務に係る年間契約事務、②補修及び修繕に係る随時の実施判断及び契約事務(1.故障等報告受付、2.現地調査、分析及び対策の検討、決定、3.契約事務、4.現地打合せ・立会い、5.竣工・完了検査、6.支払事務)、③維持管理運転委託事務(1.過去実績及び現状分析、2.維持管理業務設計・積算及び予算算定、3.維持管理業務契約、4.月毎の維持管理状況確認及び精査、5.委託費支払事務)、④汚泥処理に係る産業廃棄物委託事務
【主な予算費目】	需用費(消耗品費、光熱水費、施設修繕費、燃料費、医薬材料費)、役務費、委託料、使用料及び賃借料、工事請負費
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	国や県から、東日本大震災による下水道施設等の損壊の情報や災害への備えに関する指導等が増えた。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標	新規・拡充区分:
①手段(主な活動) 24年度実績(24年度に行った主な活動)(DO)	25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)
塩浸川浄化センター、汚水中継ポンプ場及びマンホールポンプ場の機能を保持するため、専門業者へ業務委託することにより適切な運転管理、保守、点検を行った。また、各設備の故障や劣化に対し、適切な改善策を決定し優先度を判断して効率的かつ的確な修繕を行った。	前年と同様、塩浸川浄化センター、汚水中継ポンプ場及びマンホールポンプ場の機能を保持するため、専門業者へ業務委託することにより適切な運転管理、保守、点検を行う。また、各設備の故障や不具合に対し、適切な改善策を決定し優先度を判断して効率的かつ的確な修繕を行う。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由
→ ア: 保守点検、委託の件数	件 汚水の流入量増加が見込まれるため、平成22年度から増設に着手した水処理施設が平成24年10月に完成、運転を開始する予定であり、運転管理を行う施設の増加により維持管理費も増えるため。
イ: 補修件数	件
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
終末処理場、中継ポンプ場、マンホールポンプ場	(単位)
	→ ア: 終末処理場数
	イ: 汚水中継ポンプ場及びマンホールポンプ場数
	箇所
	箇所
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
支障無く稼働できる。	(単位)
	→ ア: 不具合やトラブルの発生件数
	件
	イ: 不具合やトラブルへの対応率
	%
*③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠	
不具合やトラブルの発生件数及びその対応率をみることで、塩浸川浄化センター、汚水中継ポンプ場及びマンホールポンプ場の機能が保持され、支障無く稼働できたかどうかを判断できると考えた。	
総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0	

(2)各指標・総事業費の推移		単位	22年度 実績(決算)	23年度 実績(決算)	24年度 目標(当初予算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	26年度 予定	27年度 見込	28年度 見込	
① 活動指標	ア 件	件	4	4	4	4	4	4	4	4	
	イ 件	件	9	5	9	9	10	11	12	13	
② 対象指標	ア 箇所	箇所	1	1	1	1	1	1	1	1	
	イ 箇所	箇所	32	32	32	32	32	32	32	32	
③ 成果指標	ア 件	件	9	5	10	9	10	11	12	13	
	イ %	%	100	100	100	100	100	100	100	100	
投資 入 費 量	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円	69,824	69,910	75,666	73,405	75,164	74,000	75,000	76,000
		繰入金	千円								
	一般財源	千円			6		6				
	(A) 事業費計	千円	69,824	69,910	75,672	73,405	75,170	74,000	75,000	76,000	
人 件 費	(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
	正規職員従事人数	人	7	6	6	5	6	6	6	6	
延べ業務時間	時間	1,005	695	700	570	700	700	700	700		
(B) 人件費計	千円	4,140	2,806	2,826	2,320	2,826	2,826	2,826	2,826		
トータルコスト(A)+(B)	千円	73,964	72,716	78,498	75,725	77,996	76,826	77,826	78,826		

事務事業名	塩浸川浄化センター及び関連ポンプ場維持管理事業	所属部	水道局	所属課	上下水道課
-------	-------------------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部 (SEE)

*原則は24年度の後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した 施設に精通した専門業者に業務を委託し適切な運転管理、保守及び点検を行ったこと、また、各設備の故障や不具合に対し、適切な改善策を決定し優先度を判断して効率的かつ的確な修繕を行ったことにより目標を達成できた。	<input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】
	②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 日常の点検管理等により施設の状況を把握しており、突発的な不具合等に対して適切な補修等に対応することにより、目標達成の見込みはある。	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 老朽化した施設の改善必要箇所を事前に把握することにより、不具合の発生や故障箇所を減少させ、円滑な運転管理につなげているが、施設の機能が保持されることが成果であり、向上の余地はない。ただし、平成24年度に限っては、増設施設が稼動する予定であり、施設の追加があっても目標を達成できれば成果の向上と捉えることができ、向上余地はある。	<input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似する他の下水道事業等の維持管理事業があり、作業的な連携は既に行っている。しかし、対象施設が明確に分けられており、現時点での統廃合はできない。	<input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 必要な維持管理業務のほとんどを委託し、最小のメンテナンス経費で運転管理しており、設備の増設も加わるため、増額はあっても、これ以上の削減はできない。	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 現状でも最小の人員で、他の事業との兼務により取り組んでおり、これ以上の削減余地はない。	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 合志市下水道条例に基づき、受益者から使用料を応分負担して頂いており、公平である。	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 施設の運転及び維持管理業務のほとんどを専門業者に委託しており、その財源は使用者からの使用料である。技術的な専門性や緊急時の即時対応など、信頼性及び安全性の観点から、現時点で地域や住民に移行することはできない。	<input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

施設に精通した専門業者に業務を委託し適切な運転管理、保守及び点検を行ったこと、また、各設備の故障や不具合に対し、適切な改善策を決定し優先度を判断して効率的かつ的確な対応ができ、施設の機能が保持され、支障無く稼動できた。電気や機械など、特殊な設備が多く、不具合箇所の早期発見及び計画的な更新を行うため、専門業者による保守点検にも取り組む必要がある。

4 今後の方向性(事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 計画的な維持管理業務を前提とした下水道長寿命化計画を策定(H23-24)し、長期にわたる資産管理を行なうことで、ライフサイクルコストの最小化を図る。	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上			○																		
	維持																					
	低下																					
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 計画的な維持管理業務を前提とした下水道長寿命化計画を策定し(H23-24)、長期にわたる資産管理を行なうことで、ライフサイクルコストの最小化を図る。 大規模な施設の改築及び更新と小規模な維持補修工事の選別を行ない、効果的なメンテナンスを図る。																						